

# かがユニ

# NEWS LETTER

**第13号**
**AUTUMN**

ぎんなん(幸町キャンパス)



＊ 目次 ＊

- ・学長挨拶 . . . 1
- ・Topics . . . 2
- ・学部・研究科紹介 . . . 5
- ・ブランド資産紹介 . . . 7
- ・香川大学検定抜粋 . . . 8



## 長尾学長挨拶

ー大学生諸君は肩で息するほど学修しているかー

これは8月、国立大学法人トップセミナーで講師を務められた読売新聞社特別編集委員の橋本五郎氏の言葉です。最近、中央教育審議会や文部科学省でも、日本人大学生の学修時間の少なさが問題視されています。ある調査によると、日本の学生の約6割は授業時間を除くと、授業の準備や予習などの自発的な学修に1週間で1～5時間しか充てておらず、約1割は0という結果です。これは、例えば米国の学生に比べると圧倒的に少ない状況です。ここで考えなくてはならないのは、学修とは何かです。私はただ机に向かって時間を増やすことが目的になってはいけないと思います。授業と直接関係ない読書、NPO や地域での活動や企業でのインターンシップなど学修する機会と場は、昔に比して格段に多くなっています。

ある教員からお聞きした事ですが、本学の外国人留学生が一番驚くのは、学生たちが授業開始間際に教室に駆け込み、

そして授業を済ますことだそうです。かの国では授業前に教室に入って予習に余念がないとの事でした。30年以上前の話になりますが、シカゴ・イリノイ大学の学生は、授業で質問したら、決して知らないと言わないしたたかさ、間違っていたら自学自習で確認し知識を増やしていく気概を持っていたことを思い出します。

また、何よりも学生に向き合う教員が、真に魅力ある学修の動機付けと刺激を与える授業を行えば、学生は自ら授業に向けて予習もするし、関連した本を読むなどして復習もするはずで。すなわち、学修の中身をいかに充実させるかだと思います。私は学生に“〇〇先生の授業を受けないのは損だ”と言われれば本物だと思っています。

さらに、同セミナーで、日立製作所取締役会長の川村隆氏は、“大手外国企業のトップと話をする機会があるが、そうした方々は、専門領域は勿論、哲学、歴史、芸術等々幅広い教養をマスターしている。

大学は専門領域のみならず幅広い学修・教養が身につく教育をすることが大事だ”といった話をされました。

香川大学では、幅広い教養を身につける初年次教育を目指し、種々の特別教育プログラムを用意して、学びたい諸君には多くの機会を作ります。

学生諸君が大学で過ごす4～6年間は、人生で最も自由で、かつ自己を形成する時期です。是非とも多様な生き方や異文化に接し、時には肩で息するくらい学修し、その楽しさや奥深さを修得して下さい。学修で身につけた知識や教養は必ず一生諸君の血となり、肉となります。

